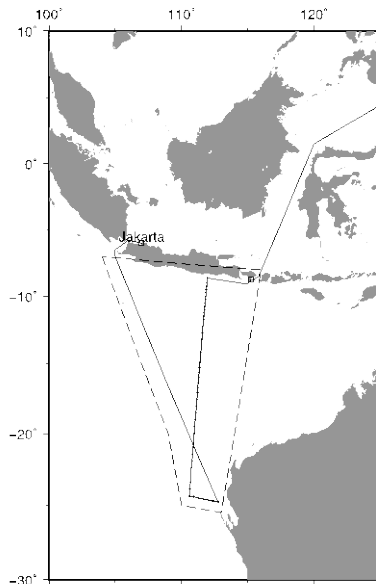


## MR15-05 速報

○勝又 勝郎 (海洋研究開発機構), 村田 昌彦・内田 裕・熊本 雄一郎  
・佐々木 建一・笹岡 晃征・小野 越郎 (海洋研究開発機構)

研究船「みらい」によるインド洋北東部航海 MR15-05 の結果を速報する。当航海は世界海洋循環の枠組みで 1995 年に行われた高精度断面観測の再観測 (リポートハイドログラフィ) であり、30 マイル以下の間隔での温度塩分プロファイル観測 (CTD) と採水観測を主な手段とする。2015 年 12 月 23 日にジャカルタを出港し 12 月 28 日に南端から観測を開始し、この原稿を執筆している 2016 年 1 月 6 日時点で全 52 点中 36 点の観測を終了している。この海域は水平に見れば太平洋から海大陸を経て流入してきたインドネシア通過流とインド洋水が出会う点であり、鉛直に表層から見ていけば、多島海の大量の降雨を反映した低塩分水・中緯度の激しい蒸発を反映した高塩分亜表層水・南極中層水による低塩分水・インド洋をゆっくりと循環した終端となるインド洋深層水による低酸素水・南大洋からやってきた周極深層水が複雑な構造を示している。当航海の結果により 20 年間の各水塊の変化が記述出来る。また、航海後半では 1995 年の観測では不可能であった南ジャワ海流を横切る観測点が予定されており、この変化の激しい海流のスナップショット像が得られると期待される。本発表では主に物理面での結果を速報する。



MR15-05 の観測点 (黒点)